

デジタル写真同好会

平成18年1月に設立されたCnetのデジタル写真同好会は、来年は15周年になる。小林明光さんを指導者として会員は17名（うち女性会員は5名）、毎月Cnet事務所で例会を開催している。春と秋の撮影旅行会も楽しみである。今年はコロナ感染症の防止対策で、春の撮影会は中止になったが、月例会はZoomを使ってオンライン会を開催している。会員はパソコンに作品をアップして参加者全員が自宅でネットにつないで見ることができる。事務所に集まってプロジェクターに投影した画像より明るく綺麗に見えるので好評だ。

この自粛期間は定例会に出す作品も一年前に撮った写真などになってしまい寂しくなっている。ツアーバスを利用した観光地へ行って撮影会は無理でも、市内近郊で皆で集まって撮影会は開催したいものだというので、秋の撮影会は小木津山自然公園で開催することにした。

デジタル映像は今や急速にいろいろな技術が進み、パソコンで誰でも映像を制作できる時代になった。デジタル写真もそういう時代の波に乗って、デジカメが誰でも使えて、その撮影画像を自由に加工したり、転送したりして共有して楽しむことができるようになった。大ヒットしているアニメ映画「鬼滅の刃」はデジタル映像技術を駆使して完成されている。日立市の大煙突の映画「ある町の高い煙突」でも、大煙突が完成して見上げるシーンにはアニメ技術が使われている。

写真という現実空間を写し取りそれを再生する技術は、どんどん進化している。そういう意味でデジタル写真同好会がパソコンを駆使しながら皆で楽しんで行くことは、時代の波に乗った活動だろう。

VR (Virtual Reality) 仮想現実

AR (Augmented Reality) 拡張現実

と表記される映像は、人間の目で見て撮影したり再生したりできる現実空間を、驚くほどに拡大して見せてくれる。VRは文字通り現実から変化かけ離れた映像を創作したものだ。SF映画やゲームはまさにVRの世界である。そしてARという拡張現実、もう少しリアルなものが映像として見えるようになる。多数のカメラで撮影した映像を選択して見ることができる。例えば野球場で自分の目で見える視野の映像だけでなく、ネット裏やベンチの映像まで投手、バッターや各野手をアップした映像を同時に見える。自分のメガネの中にそのようなAR映像が見える仕掛けを組み込むことができるようになる。

ここで私の撮影した少々ARっぽい写真を紹介する。上の写真は高圧線の下の団地内を走るバス2台と歩行者を連続写真で3回撮影して、その中から3枚の写真を選択して合成した。下の写真は団地に向かうバスがミラーに映っている。このバスの映像は別のカメラの魚眼レンズで撮影して、2枚の写真を合成したものだ。



団地のバス通り



団地の空を走るバス